

次の英文を読み、設問に答えなさい。(高3 S A 2004年 一橋・前期)

There are, of course, many motivating factors in human behavior, but we would claim that nationalism is particularly worthy of study. Why is it particularly significant? (1)Its significance lies in its power to arouse passionate loyalties and hatreds that motivate acts of extreme violence and courage; people kill and die for their nations. Of course it is not alone in this: people are driven to similar extremes to protect their families, their extended families or 'tribes,' their home areas with their populations, and their religious groups and the holy places and symbols of their religions. However, these other loyalties are often rather (a) to understand than nationalism. Parents making supreme sacrifices for their children can be seen (b) obeying a universal law in life forms, the instinct to protect one's own genetic material. This instinct can also be seen at work in the urge to protect one's extended family; but then the extended family, or on a slightly larger scale the 'tribe,' can also be seen, in perhaps the majority of circumstances in which human beings have existed, (c) essential for the survival of the individual and of the nuclear family. The nation is not generally essential to survival in this way. Of course, if the entire nation were to be wiped out, the individuals and their families would die, but the (d) of the nation as a social unit would not in itself pose a threat to individual or family survival; (2)only if it were to be accompanied by ethnic violence or severe economic collapse would it be life-threatening, and such disastrous events are not an inevitable consequence of the loss of political independence. Conversely, there is no logical connection between the gaining of political independence by a subject nation and increased life chances for its citizens. In many, perhaps the vast majority, of modern nations there is likewise no evidence that in defending the nation one is defending one's own genetic material; the notion that the citizens of modern nations are kinsfolk, while the citizens of (potentially) hostile neighbors are aliens, makes no sense in view of the highly varied genetic make-up of most modern populations.

1. 下線部(1)を日本語に訳しなさい。
2. 下線部(2)を日本語に訳しなさい。
3. 空欄(a)に入れるのにふさわしい英語1語を書きなさい。
4. 空欄(b), (c)には同一の語が入る。その英語1語を書きなさい。
5. 空欄(d)に入れるのにふさわしい dis で始まる英語1語を書きなさい。

※語数的に長文と呼べるかどうか微妙なので、空所を埋めて「英語下線部和訳」として掲載することも考えたが、3箇所ある空所を正確に埋められるかどうかを確かめるために大学の出題通りに総合読解問題として取り上げた。数年前の出題だが、内容は世紀のスパンで捉えても普遍性を失わないテーマを扱った高度なものである。レベルが高いときの一橋大学の問題はまさに challenging である。惜しむらくは、下線部(2)以降に設問がないことである。最後まで読み通して内容を理解したい。

【解答・解説】

1. 全訳下線部 [別解答例] ナショナリズムの重要性は、極端な暴力行為や勇敢な行為の動機付けとなる激情的な忠誠心や憎悪を喚起するナショナリズムの力にある。
・全訳中では訳し下げたが、関係代名詞は元々非限定用法には用いない that であり、別解答例の訳のほうがオーソドックスであり、また無難でもある。
2. 全訳下線部 ・言うまでもなく if節中に were to を用いた「仮定法未来」であり、主節が would it be ... と倒置になったのは、if節が only で始まったからである。(only+副詞節は否定の副詞節として扱われる、という必須の構文知識が問われている)
・実は難しいのは主節の主語 it が何を指すかである、it が副詞節(特に if節)の内容を受けることがある、という知識がなければ逆に迷うこともないが、今回は if節の it と同様に the disappearance of the nation を受けていると取るのが文脈上、自然である。結果的にこの下線部は設問の 5. とかぶることになる。
・and は but に近いニュアンスで用いられている。
3. easier ・前に rather があるので、easy という原級でよいと思った人が多いかもしれないが、rather を比較級的に用いるのは、This is easy rather than difficult=This is more easy than difficult. のように比較する2つの性質(形容詞)が与えられている場合である。今回の rather は同じ副詞でも比較級の easier を修飾する働きをしている。
4. as ・(b)と(c)に同一の語が入るとするのが大きなヒントである。see=view=regard であるが、この as 補語の場合、補語の位置に分詞形形容詞だけでなく、目的語や補語を伴う準動詞の現在分詞が来ることが特徴である。
5. disappearance ・直前のセンテンスに be wiped out があり、dis で始まるというヒントがあるので、それほどの難問ではない。

[その他のポイント]

- ・1～2行目の we would claim の would は仮定法的婉曲表現であり、we はいわゆる筆者の we であり、通常の「我々」ではない。
- ・下線部(1)の後の Of course it is not alone in this は it, this 共に下線部を含む前の文の内容を受けていると考えられる。
- ・7行目と13行目に出てくる extended family「拡大家族」はいわゆる核家族に対する概念だが、副詞句 on a slightly larger scale で対比されている 'tribe' と日本語の「部族」が対応しているかどうかは立場によって意見が分かれるだろう。
- ・17行目の in this way は survival にかかる形容詞句である。副詞句と取ると完全な誤読になる。
- ・最後のセンテンス the notion 以下の内容は世界史的に見て地域によって受け止め方に差があるように思われる。
- ・「国民」とときには「民族」とも訳される nation は state との区別を意識して「国」という訳語で統一したが、もちろん入試で「国家」と訳して減点されることはない。同様に nationalism はそのままカタカナで訳したが、「愛国主義」でも愛国心」でもよい。本来カタカナ語は避けたほうが無難だが、これもケース・バイ・ケースである。

(全訳は次ページ)

【全訳】もちろん、人間の行動には多くの動機付けとなる要因があるが、しかしナショナリズムは特に研究に値すると主張したいと思う。なぜナショナリズムは特に重要なのか。(1)ナショナリズムの重要性は、激情的な忠誠心や憎悪を喚起し、そうした忠誠心や憎悪が動機となって極端な暴力行為や勇敢な行為を生む力にある。人は国のために人を殺し、自らも死ぬ。もちろん、そうしたことはナショナリズムに限ったことではない。人は自分の家族、拡大家族や「部族」、自分がその一員である集団が住む地域、そして自分が帰属する宗教団体と、その宗教の聖地と象徴を守るためにも、似たような行動に駆り立てられる。しかしながら、こうしたナショナリズム以外の忠誠心は、多くの場合、ナショナリズムよりはむしろ理解しやすい。自分の子供のために究極の犠牲を払う親は、生命体の普遍的な法則、つまり自分自身の遺伝物質を守ろうとする本能に従っていると考えることができる。こうした本能は、拡大家族を守ろうとする衝動にも働いているのを見ることができるが、とはいえ[しかし一方では]拡大家族、あるいはもう少し大きな尺度では「部族」、もまた、人間が生存してきた環境のおそらく大多数において、個人や核家族の生存のために不可欠なものと考えることができる。国は一般的には、こうした生存にとって不可欠なものではない。もちろん、もし仮に国全体が消し去られてしまえば、個人とその家族も死ぬことになるが、社会的単位としての国の消滅は、それ自体は個人や家族の生存にとって脅威とはならないだろう。(2)もし仮に国の消滅に民族的な暴力や深刻な経済的崩壊が伴った場合だけは、国の消滅は生命を脅かすことになるだろうが、そうした破滅的な出来事は、政治的独立を失うと必然的に生じること[政治的独立を失うことの必然的な結果]ではない。その逆に、従属国が政治的独立を獲得することと、その国の国民の生存の可能性が増大することの間には、論理的な関係はない。近代の国の多く、おそらく大多数において、同様に、人が国を守る際に自分自身の遺伝物質を守っているという証拠はない。近代の各々の国の国民は一族であるが、一方(潜在的に)敵対する各々の隣国の国民は異質な人間であるという観念は、近代の人間集団の著しく多様な遺伝子構成を考えると、意味を成さないのである。